

2026（令和8）年度 事業計画

【最大課題】

加盟員減少を止める

第3期中長期計画でも課題となっている、日本のボーイスカウト加盟員の減少が止まっていない。県連盟等の協力の下、ワクワク自然体験あそびや防災キャラバン等の実施展開で、一時的には減少率が下がったが、なかなか決定的な効果は出ておらず、現在の日本連盟としての最大課題となっている。 Appendix（補足資料）参照

【成果目標】

登録人数 71,500人（2027/3/31現在）

加盟員は、前年度を維持する目標とした。

【最重点施策】

社会に貢献できるスカウトを育てることで スカウト運動の価値をより高める

社会貢献できるスカウトを育てるために、ローバースカウトにフォーカスを当て、ワークショップやムート、災害ボランティアなどを実施してきた。これにより、具体的にスカウトの未来像を見ていただけるようにすること、ボーイスカウトが社会貢献できる教育を実施してことを示してきた。

これを更に強化すること、スカウト教育を実際に行う指導者とそれを支える団指導者、スカウト運動の理解者を増やすことで、スカウト運動の社会的価値を高めていくことで最大課題である「加盟員減少を止める」ことを目指すとともに、社会ニーズに合致した青少年教育を進めていく。

【重点施策】

1) 入隊推進

加盟しているスカウトに魅力あるプログラム提供することは当然だが、「ワクワク自然体験あそび」の展開、「募集ポスター」「WEB募集媒体」作成、Compass of Scoutsの発刊、SNSを利用などにより、具体的ボーイスカウト活動とその成果を子どもたち、保護者、そして社会に紹介、アピールし、エントリー部門だけでなく全年代のスカウト入隊、指導者確保を推進する。

2) 中途退団防止

地域、国際社会と結びついて、人と地球により良い未来をつくることの目的を明確にした魅力あるプログラム展開と広報活動により、スカウトや保護者に、国際的に社会からも認められているスカウト教育の魅力を体感してもらうこと。また、企業連携やスカウト年代に興味のあるコンテンツを活用して、ボーイスカウト運動、スカウト活動の楽しさを体験してもらうことで、スカウトたちの活動参加のモチベーションを高め中途退団を防止する。

3) 上進推進

社会から求められる人になれるプログラム展開により、スカウト、保護者、社会から憧れられるローバースカウト、ベンチャースカウト、ボーイスカウトを育てる。

また、世界中に同じ活動をしている仲間と共に、世界的な課題、考え方などを体験、理解でき、地元にいながら世界とつながっている活動であることをアピールする。

その結果、スカウト自身と保護者から具体的にスカウトの未来が見えるようにすることで、上進を促進する。

4) APR 三か年計画の国内における展開

社会から求められるプログラム展開のためのプログラム刷新をはじめ、APR 三か年計画で示されている各種の施策を日本国内においても推進する。

5) 人財育成

本年度は、特に、ボーイスカウト運動を支え推進してくれる成人指導者の発掘と、隊、団の指導者が向上できる訓練、教育を続けると共に、それを支える成人を育成するため、性別、年齢、宗教などの壁を設けず、それぞれの立場でのボーイスカウト運動に貢献できるよう、成人教育、訓練を開催し、運動を支えてくれる人財の育成を推進し、未来に期待が持てる運動にする。

6) ユース年代のリーダーシップトレーニングと意思決定への参画推進

また、本年度はユース年代のスカウト・指導者が団・地区・県連盟および日本連盟の各階層においてリーダーシップを発揮し、意思決定に参画することを支援するための各施策を具現化する。

7) 情報発信、共有

「Scout UP!」などを通じて、ミライ冒険通信など、スピーディーに必要な人に必要な情報提供、相互のコミュニケーションが取れるよう積極的にDXの利用を推進する。

その結果、活動内容を、社会、加盟員および保護者にタイムリーに発信し、ボーイスカウトを意識していただくことで、理解者、協力者を増やし、スカウト運動の情報を共有し、スカウト運動に携わっていることに誇りが持てるようにする。

8) 信頼される組織の維持、向上

運動に携わっている人や、隊、団、地区、県連盟、日本連盟とのコミュニケーションをより活発にし、ボーイスカウト組織が信頼されるよう、セーフ・フロム・ハーム(SfH)、ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン (DEI)、日本版 DBS (Disclosure and Barring Service) への対応検討などを推進すると共に、日本連盟のガバナンスを点検、改善と、社会状況と時代に適合した組織への変革により、社会、加盟員および保護者から信頼される組織としての価値を高める。

これには、日本連盟ばかりでなく、県連盟、地区、団、加盟員との連携を明確にし、意

思決定機関の見える化も含まれる。

9) 第19回日本スカウトジャンボリー (19NSJ)の成功

2026年8月4日～10日、「挑戦～神石から未来への第一歩～」をテーマに、広島県神石高原町で開催される19NSJを成功させることにより、参加者には、ボーイスカウト運動の醍醐味、参加して得られる素晴らしい体験をしてもらい、自分の周りにその体験を話すことで、保護者、地域社会、参加できなかったスカウトにスカウト運動の具体的価値を広めてもらう。

同様の目的で、2027年8月ポーランド・グダニスクで開催される、第26回世界スカウトジャンボリー (26WSJ)への日本派遣団、派遣準備、並びに2028年に開催する第14回日本アグーナリー (14NA) 準備を進める。

10) 財政基盤の強化

第3期中長期計画でもふれられている、企業、団体等へボーイスカウト運動の価値を紹介し、財政的支援を得るように日本連盟役員、関係者から働きかけると共に、登録費に依存する財務体質からの改善を目指す。

11) 第3期中長期計画

第3期中長期計画のこれまでの執行状況をレビューし、中長期計画で目指している姿を2032年に達成できるか再確認し、計画で明確にされている2026年の社会状況、環境、活動実績に合わせた見直し準備を進める。

また、その中でスカウトの減少下での効果的教育方法、活動の進め方、団運営、県連盟運営、日本連盟運営にも、具体的に未来の見える形を表すことに挑戦していく。

2026年度の最重点施策を含めた、日本連盟で展開する予定の施策と目的、その担当については以下に示すが、その具体的展開方法については、担当委員会等の事業展開計画で明らかにする。

また、2026年10月に開催される第2回理事会において、定款第36条8の定めに従い、それぞれの担当委員会等の業務執行責任者執行者から業務遂行状況報告を理事会に報告する。

また、2026年度の事業報告をする2027年第1回理事会においても、その業務執行報告をする。

【具体的事業展開】

日本連盟の事業は大きく分けて、3つの分野である。

1) 公益事業 日本連盟は公益財団法人であるため、定められた公益目的事業を社会のために展開する。それを、日本連盟では以下の4つに分類している。

- ① 公益事業1 (公1) 教育計画の策定、推進、施設の提供、集会等の開催事業(含共済)
- ② 公益事業2 (公2) BS運動の普及、広報活動及び図書雑誌刊行
- ③ 公益事業3 (公3) 指導者の育成事業
- ④ 公益事業4 (公4) 国際相互理解の推進および国際協力事業

公益事業への寄付に対し、目的別寄付をわかり易くするために、事業計画との連動を今期実施していく。

- ・ 現状の日本連盟維持会費 ➡ 指導者養成事業(公3)
- ・ トモスス目的寄付 ➡ 教育計画の推進 (公1)
- ・ 19NSJ 目的寄付 ➡ 集会等の開催 19NSJ (公1)
- ・ 26WSJ 目的寄付 ➡ 国際理解促進国際協力事業(公4)
- ・ 全国大会の開催 ➡ 全国大会の開催事業(公3)

その他公益目的寄付は都度、財務委員会で検討し決定する。

- 2) 収益事業 公益事業、管理事業を財政的に支える事業
- 3) 管理事業 公益事業を展開するための管理事業 (ただし、決算は(1)、(2)に案分さし計上されている。)

公1事業

	細目	担当	
教育計画の策定、 推進、施設の提供、 集会等の開催	教育施策を推進する教育推進本部会議開催 (教育推進本部調整会含む)	総コミッショナー	
	施策推進のための各種委員会開催事業実施 (キックオフミーティング含む)	各委員長 (総コミッショナー)	
	県連盟と日本 連盟の連携強 化のため	全国事務局長会議開催 (事前 Q&A)	事務局長
		全国県コミッショナー会議開催	総コミッショナー
		県連盟代表者会議開催 (事前 Q&A)	理事長
	関係者との連携強化する新年賀詞交歓会開催	理事長	
	全国組織拡充担当委員長会同開催	組織拡充委員会	
	組織拡充県連盟支援事業実施	組織拡充委員会	
	日本連盟役員国内組織訪問事業実施	役員	
	募金事業	ボーイスカウト NEWS 発行、送付	社会共創委員会 (広報委員会協働)
		維持会員広報紙&礼状送付	
		維持会員感謝盾、維持会員章作成、贈呈	
		募金パンフレット等作成、配布	
		ファンドレイジング協会登録	
		WEB 決済業務遂行	
クラウドファンディング事業推進			
ともに進もう事業推進 (もったいない寄付含む) と 助成事業実施			
社会連携	コラボレーションバッジ作成、展開	プログラム委員会 広報委員会 社会共創委員会 事務局	
	全国防災キャラバン推進		
	企業研修協力		
	難民支援プロジェクト協力		
	地域連携事業推進		
	ポケモンコラボ事業展開		

教育計画の策定及び運営事業	「人生の岐路に立つ君に」事業実施	組織拡充委員会
	富士スカウト章授与(記念品含む)事業実施	プログラム委員会
	プログラム調査研究実施	
	エジンバラ公アワード参加事業推進	
	宗教章授与事業実施	信仰奨励小委員会
	宗教代表者会議開催事業実施	
	高萩スカウトフィールド活用事業推進	事務局
	ローバースカウト研修開催事業実施	プログラム委員会
	ローバースカウト顕彰事業実施	
	DEI 推進セミナー事業実施	DEI・SfH 特別委員会
	DEI 推進フォーラム開催事業検討	
	DEI 教材作成事業推進	
地球環境全・保護及び教育事業	スカウトの日全国展開事業	プログラム委員会
ボーイスカウトを活かした自然体験活動	ワクワク自然体験あそび全国展開事業	組織拡充委員会
教育に必要な施設の提供	スカウト会館管理事業実施	事務局
	那須野営場管理運営事業推進	
	那須野営場営繕プロジェクト推進	特別委員会
	高萩スカウトフィールド管理運営事業実施	特別委員会・事務局
	公益目的土地管理事業実施	
集会及び講演会の開催	19NSJ 開催事業	19NSJ 運営委員会
	14NA 開催準備推進	14NA 準備委員会
	富士スカウト代表表敬・顕彰事業実施	プログラム委員会
	全国スカウトフォーラム実施	
共済事業	共済事業運営実施	共済委員会
	安全促進フォーラム開催事業実施	
	SfH 推進フォーラム開催事業実施	DEI・SfH 特別委員会
	SfH e ラーニング改修事業実施	
	AED 設置推進事業推進	共済委員会
	安全記事(スカウティング誌)合本作成事業実施	

公2事業

	細目	担当
ボーイスカウト運動の普及及び広報事業	普及資料の作成事業実施	広報委員会
	名誉会議開催事業実施	名誉会議
	表彰事業実施	

ボーイスカウト運動の普及及び広報事業	組織拡充顕彰事業実施		組織拡充委員会	
	写真、ムービーコンテスト展開事業実施		広報委員会	
	スカウトミュージアム運営管理事業実施		事務局	
	キッズフェスタ事業参加実施費		プログラム委員会	
	PR 戦略 展開事業	PR イベント出店事業推進		広報委員会・事務局
		その他 PR 展開事業推進		広報委員会
		WEB 広告事業実施		
新ブランディング確立事業実施				
図書雑誌等刊行・電子情報提供事業	Compass of Scouts 刊行事業実施		広報委員会	
	ミライ冒険通信 発行事業 (WEB)			
	出版物刊行事業実施(増刷、改訂版発行、廃棄、著作権業務委託含む)		プログラム委員会	
	情報システム構築および管理事業実施		広報委員会・事務局	
	WEB サイト修正事業 (紹介含む) 実施		広報委員会	
ボーイスカウトアプリ運用事業実施				

公3事業

	細目	担当
全国大会開催事業	(開催地県連盟、ブロックのご協力を得て展開)	理事会(実行委員会)
	全国スカウト教育会議実施	総コミッショナー
成人支援体制の充実事業	トレーニングツール開発事業実施	AIS 委員会
	ソングアドバイザー育成事業実施	
指導者育成事業	県連盟開設指導者訓練事業実施支援 (ボーイスカウト講習会、WB 研修所、団委員研修所、コミッショナーベーシックトレーニング、任務別研修)	総コミッショナー
	県連盟指導者養成補助事業実施	財務委員会
	日本連盟開設指導者訓練事業実施 (ウッドバッジ実修所、団委員実修所、リーダートレーナーコース、副リーダートレーナーコース、ウッドクラフトコース、任務別研修 (県コミッショナー課程))	総コミッショナー
	トレーニングチームの充実推進事業(県連盟ディレクター会議、トレーナー研究集会、実修所所長主任会議、新任 ALT 研修会、日本連盟ディレクター会議)	

公4事業

	細目	担当
国際理解促進国際協力事業	ナショナルジャンボリー等(含む富士スカウト海外派遣)派遣及び選考事業実施	国際担当者連絡会
	26WSJ 派遣準備事業推進	26WSJ 派遣実行委員会

国際理解促進国際 協力事業	WOSM、APR 委員等の交通費補助事業実施	国際担当者連絡会
	役職員海外派遣実施	
	WOSM 関係強化事業	
	翻訳作業事業推進	
	国際登録料支払い事業実施	財務委員会・事務局
	JOTA/JOTI 参加展開事業実施	プログラム委員会
	世界スカウト財団協力事業	理事会

収益事業

細目	担当
不動産管理事業実施	理事会（事務局）
事務代行事業実施	事務局
登録事業	事務局（組織拡充）
賠償責任保険関連事業（登録に含まれる）	事務局・共済委員会
プロジェクトマネジメント（DX）事業実施	事務局
サイバーセキュリティ運営事業推進	事務局

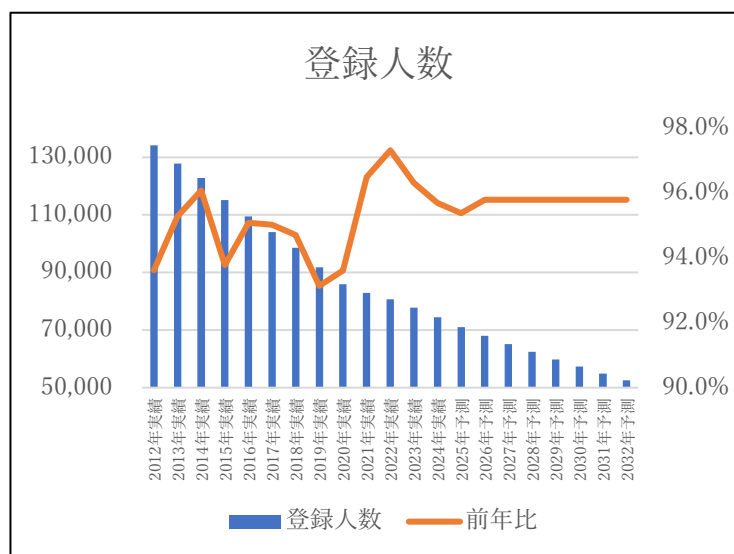
管理事業

細目	担当
評議員会、理事会、運営会議、専務・常務会開催事業実施	評議員会、理事会等
事務局運営、管理事業実施	専務理事（事務局長）

※ なお、ボーイスカウト活動に必要な用品（需品）の供給については、別組織である一般財団法人ボーイスカウトエンタープライズが日本連盟と連携して行っている。

【 Appendix (補足資料) 】 加盟員数の減少が止まらなければ？

右のグラフのように、過去の登録人数推移をみると、2020年以前の前年比7%前後の減少から「ワクワク自然体験遊び」などの事業施策と、県連盟、地区、団などのご努力の結果、2021～2023年は3～4%の減少になったが2024年以降減少率が増加している。2026年以降、施策の効果により前年比95.8%で推移したとしても、2032年度には総登録人数52,580人と、2025年度より18,420人の減少が予測される。



そうなった場合、日本連盟の収入のうち大きな割合を占める、登録収入は12,890万円減少する。その、補充のための施策を展開するとしても、日本連盟の事業は縮小せざるを得なくなり、組織の再構築が必須となる。

参考資料 (登録人数資料の探し方)

日本連盟ホームページ ➡ 日本連盟について ➡ 情報公開 ➡ 年度事業報告
➡ 年度事業報告【組織拡充資料】